

人権作文

小学校上学年

【教育長賞】

やせこせ

七浦小学校 五年 樋口 瑛太

ぼくは、小学校のなかからけがが多くて、三年生と四年生のときには、サッカーをしていて足を骨折したことが、何

回もあります。ぼくは、松葉じえを使って歩いていたので、車で登校していました。朝、学校に行くとケニアのみんなが、くし箱の前で待っていて、荷物を手分けして持ちわたさず、階段を登るサポートしてくれる人が多くて、危なくないようにならなくてサポートしてくれるようになりました。

学校で生活するのは、食器を代わりに運んでくれたり

松葉じえを置いておく場所を一緒に考えたりくれたり代わりに黒板を消してくれたりと、みんながいろいろな手伝いをしてくれました。

ぼくがけがをするたびに、みんななぜそこまで助けられるのかと不思議に思いました。自分のこともないといけなく、いっしょに手伝ってあげる人は、めんどくさいんだらうと思ったからです。けど、ぼくの周りの人は、手伝っていい前からだすけてくれました。

ぼくだったらどうしたらいいか、ぼくは手伝っていかないとはいわねえよ、めんどくさいって自分から手助けしないかもしれないと思いました。みんな、やせこせがあるからぼくのじょうを助けてくれたんだなと思います。

けど、もしかしたらぼくみたいにくれえいってほしいって思ってた人もいるかもしれません。なので、みんなが手伝って

「わたしのほなをよしたんね。 めなほをうしやえ願へ、 樂し
みははしむなしてんやん」思えまこと。 ほへは、 うしお
らうたがうたのへ、 なむを家族に語ったよ、

「困りてるほへを誰かが手伝ってるのを見て、 自分も
せうしあはたうしおの誰かが手伝ってるよ、 なむを
みた誰かがまた手伝ってるよ、」 それこそが連れこたご
じやなご。」

よお母さんが言うまことだ。 ほへは、 なむを聞くと、 うしお
なうしうこたご、 あい、 めなをのへをうた、 のをうた
うしおなを家族が手伝ってるよ思えまことだ。 なんと、 なむ
がうしおにいななをいふがめを思えまことだ。

「めなほ、 それこそ家族がめなをのへをうた家族がやあが
あつたかもしれなごけよ、 えごたのまわらひやそれこそが連
れこたごのほ、 えごたもめなをうたやうしおのほをうた

じやなご。」

よお母さんが言うまことだ。 めなをのへをうたうしおのほを
あふ、 うさだを思いのいよまうのほをあふたい、 うしお
やうしお気持ちがあはは、 うしおかかななるのかなう
思えまことだ。

僕のクリスは、 男子も女子もみんななかよと、 みんな
うしおをうた。 うしおのほをうたが、 クリス全体の
やうしおをうたのほをうたのほをうた。

ほへは、 じのクリスが大好きです。 じながらみんなを
樂うしおうたうしおをうた。



【特選】

わたしならどうするの…

北鹿島小学校 四年 北村 真紘

うじめは、なせなひなのなの。

世界中からうじめをなひすのは、どうしたらいいのかな。

わたしは、うじめをつけたことはない。でも、人をいじ

めたことはあるかな。人をきまづけたことはないかなと心

に聞いてみるようになった。学校では、だれかの悪口を友達

と一緒に言っていて笑いながら聞いていなかったかな。家では、

家族に言ったら悲しむような言葉をかけていないかな。

もしうい言葉を言ったらまじだよわね、お母さんとおじい

ねる。なんでだろう。わたしが言った言葉をまじになった

ら、なにもかまなひなのなのかな。そのひなの

言葉を言ったらどうして気がした。まず、自分の中心

がどうしてどうなのよ、その口調が面白いから言葉を

言ったらまじ。自分が言わたいの深々きまひのよ…。

言いつつ、相手がどう思いか考えたらどうしてまず、考

える前にわたしの口から飛び出す言葉。そんな時は、よ

あえず相手からはなわてみたら、気分が落ち着くかもし

ない。学校で友だちやみんなと話したらどうなのよ、

「どうしたの。」とせつと聞かむのよ、

「何でもない。」と強々あつらうってういかな。言われた友

達の気持ちはどうだったかな。もし、わたしが言わたら

どうい人間になった気分。とても悲しい。わたしもそん

なよわねだひなのよ、ういせなよ。ういめえな友達を

わたしはいないのだから。

みなさんの目と顔に気が持たひなのかな、自分からどう

「言葉が強ひつゝ言葉が強ひつゝ、相手の心がちへちへしてしまふことになり。友達や家族には

それは、友達をいへない。仲間をいへない。家族と話をするじやない。

「わたしのうして大事だよ。うなへなったらにじまるんだよ。」

家族や友達がきまへて言葉がもつたなら、言葉に耳が通じないじやないから、みんな仲よくなれるはず。

「言葉が強ひつゝ、うなへなるといふことがな。

うなへなるといふ、何年も何年もいふことの悲しかった気

持ていへない。言葉は明の心でうなへなるといふ。

持ていへない。言葉は明の心でうなへなるといふ。

世界中のみんなが相手のことを大事に思ったら、うなへなるといふことがない。

持ていへない。言葉は明の心でうなへなるといふ。

持ていへない。言葉は明の心でうなへなるといふ。

持ていへない。言葉は明の心でうなへなるといふ。

持ていへない。言葉は明の心でうなへなるといふ。

持ていへない。言葉は明の心でうなへなるといふ。



【特選】

あの子のために出来る事

鹿島小学校 六年 土井 珠乃梨

みなさんは、だれかに傷つけられた事がありますか？
悲しいけれど、私には経験があります。荷物持ちのゲー
ムでずっと持たせられたり、おかしをもらわれたりしました。
周りから見ると、ただの遊びに見えるかもしれませんが、
された人が少しでも「いやだ」「辛い」と感じれば、
それになる事でも傷みます。そのかわいなる事がきっかけ
で、いじめが始まり、やがて大きな事件に発展したり、
最悪の場合、自殺を考える人もいます。
こう思われていた時は低学年でした。引っ越してきた
あんなに辛い思いをした、仲間はずれになり始めた友達にき

われたくないと思いました。だから「いやだ」「やめし」
と言えませんでした。その結果、いつもやっかいな気持ち
と、悲しい気持ちが入り混じって、心のコントロールが
出来なくなりました。でも私は、田舎から学校での出
来事を両親に話していたので、一人でなやまののではな
く、両親や先生に相談して、解決することが出来ました。

高学年になった今、私が思うのは、自分の気持ちを素
直に言うことです。一人でなやまずに、大人に相談した
方が心が楽になるはずですよ。でも、大人に話すのがむず
かしいなら、クラスメイトに話を聞いてもらうのもいい
と思います。

もし、私が相談された立場になったら、心に決めてい
る二つの事があります。

「田舎、いじがらがいじめが自分で線引きなら

「いいです。なせなら、当事者ではない私が

「そのへんはたしかた事なごよ。」

よが

「ふむはいるだけだよ。」

よ、ごうめいしゃなごう線なごうごうまいたる、そのな

「たえないといけなのかな。」

「相談しなければよかったです。」

よ自分の気持ちをいふたをいっごうまひからです。だから、

話をいっへわたすの気持ちでいっごうのせい

「大変だったね。」

「まじかったね。」

よ共感してあげないごうが大切です。

「二つ目は、大丈夫の使い方です。人は「大丈夫ですか。」

よ聞かれるよ、本当は大丈夫ではなくても、つい「大丈

夫です。」よごうごうごうのいっごう。迷ひをかけたくな

らうごうの思ひからの反射的「言っごうごうごう人が多ごうごう

す。だから私は、

「大丈夫だよー。」

よ言っごうごうごうごう。そのなごうごうごうごうごう、

人じゃないと思っごうごうごうごう。

いじめは、気がなごうごうごうごう、相手の心に深い

傷をいけてごうごうごう。

ごうごうごう、みなごうごうごうごうごうごうごうごう

れませぬ。

いじめを見かけたり、当事者から相談されたら、勇気

をもっごうごうごうごうごう。

より多くの人を安心してごうごうごうごう。

【準特選】

いじめをしたらいけない理由

北鹿島小学校 四年 早田 咲笑

いじめのニュースをよく目にします。日本では、むし、ぼつ力、悪口、なかま外れなどのいじめが起きています。わたしは、それを見るたびに悲しい気持ちになります。そして、なぜいじめが起きるのかを考えてみました。

わたしのなりに考えたところ、思いやりがないからいじめは起きるのだと思います。思いやりがないからいじめられた人の悲しい気持ちやいたみが分からないから、いじめが続くのです。

わたしのクラスを思い浮かべてみると、思いやりがある人はいっぱいいます。じまつている人がいると「大丈夫」

と声をかけたり、泣いている人がいるとそばにいらしてきます。何かをしようとする時は「かまはな」「おっせん」したり、「すい」とほめてくれたり、クラスを盛り上げたり、クラスのみんなはいつも笑顔でいっぱいです。ケンカしたあとも「めえね」「あやまり、ながよく遊んでいきます。いじめをなくすには、思いやる心が必用です。

でも、友達をちょっとからかってみようかなと思ったことはありませんか。実はちょっとしたいたずらから、悪口やぼつ力、むし、なかま外れへとどんどん大きくなっていきます。そして、取り返しのつかないことになっていきます。自分がいらいらしたとき、友達にあたるのはよくありません。ちょっとしたからかきでも、相手の心がきずくことがあります。しい、ちょっとしたとき心をがまんするとは、じつじつたらいじめのじつじつ。

【準特選】

この世界は

明倫小学校 五年 向井 結

ちがっても幸せに生活がおくれているように感じが分りました。

私は、この世界がずっと平和であり、みんなが安心して

いろいろな世界を歩いていると思います。前 ニュウド

ニュースやコマースシャルを見たときに、たくさんの子供たちがおもしろい経験をしていることが分かりました。大人

たちが戦争を始めているのに、たくさんの子供たちが戦争に巻き込まないで、えびいひはなを銃を持たずにいる子供が、数万人いることにとてもおどろきました。

日本では、小学校、中学校に行け、みんなが、勉強するじじがとびおるのに戦争などが起きている国などは、子供でもたぐわん働かなければいけないようにしては、私た

ほかにも、戦争からのがれるために、子供だけで生まれ土地をはなれ、他の国へ移動せざるを得なくなった人々が、たぐわんいることが分かりました。私だったら、お店など一人になることも怖く、それなのに同じ地球に住んでいる同じ年くらいの子供たちが、自分が生まれた土地をはなれて他の土地で生活するのは、とても怖いと思います。

ほかにも、自分の国とちがって、はだの色などで、差別や人身売買されているようにして、たくさん権利がうばわわっているようにおもいました。

日本でも、そういう人権問題が起きているように思います。外国の人たちが、安い給料で長い時間働く労働かんきょう、

言語によるコミュニケーション問題のほかにも、しょう書のある人に対して電車やバスに乗れなかったり、アパートなどの部屋を貸してもらえないことがあっています。まだまだ日本でも、たくさんの人権問題があることが分かりました。

私たちが住んでいる日本では、今戦争は起こっていないけど、今から約八十年前日本でも戦争が起こっており、日本、ドイツ、イタリア、アメリカ、ソ連、イギリス、フランス、中国とこんな国同士で、戦争をしていたことが分かりました。

私は、戦争が怖いという事は知っていますが、本当の怖さを知りません。空襲の夜に逃げないで済むことが、これまで一度も命の危険を感じないまま、幸せにいらせているという感じが、今までになく思いました。自分

の国だけ幸せだったらいいわけではなく、戦争というものをなくすことで、人々の権利が守られると思います。

私は、まだ子供で大きなことはできないけれど、周りの人にやさしくしたり、思いやりを持った人になりたいです。び力だけど、お金に協力したり戦争や人権問題についてニュースを見てみたいです。



おへんじが大切だと思いました。

ぼくたちが住んでいる社会は、たくさんのおのやさいい
気持ちでできているのだよ、ぼくは気づきました。たとえ
ば、安全に登下校する道も、おいしい給食も、勉強ができ
るきれいな教室も、誰かが一生けんめい、てまひまかけて
作ってくれたものです。だからぼくも、誰かのために何か
できる人になりたいと思いました。大きいものじゃなく
ていつから、誰かが「助かった。」と思えるじよをしていま
たごう思いました。そして、もご間違ひを見つけたら自分
の言葉で、勇気を田つて、「おめおめよ。」と大きな声で言
えんよひになごたごうなう思いました。
じよかひは、自分がわびじよごうじよはつて、皆々と
違ひ意見を発表できるおへんじがなほつて、誰かの役に立つ
たおへんじよをみじよごうじよなう思いました。

【準特選】

助けるという言葉

浜小学校 六年 池田 琉風

いじめに合っている人を見てどう思いますか。助けてあ
げたいと思っても、その人を助けるじよ「次は私。」と思つて
助けることができない人もいると思います。いじめは、そ
の人を追いつめてしまう事もあり、絶対にそのよひないじよ
は決つてじよはなごうじよです。ごめは、自分で追ご
じよじよのじよを「強ごきちん器」です。はつてじよ
はなごうじよだう思います。ごめは、言葉じよを
じよ、無視や仲間はずれなごうごめ、のじよをネットじよ
のいじめ。私は、かみの毛が短くて、同級生からかわ
れたら笑われたらごうじよも悲ごうじよです。今思ごう

【準特選】

後悔する前に考えたこと

七浦小学校 六年 光武 美奈

私は小学二年生の頃、部活で「いじめ」というものがありました。当時は周りの人に迷惑をかけたくなって、誰にも言いませんでした。小学二年生のとき、友達から

「バレー部の体験に一緒に行かない？」

と言われて行きました。最初はみんな優しくして楽しいと思っただけ、気づけばバレーがとっても好きになっていました。しかし、練習に行くたびに、だんだん上の人から悪口を言われたり怒ったりしちをみながら「ゴロン」と言われたりするものが増えてきました。

だんだんそれが怖くなり、大した事ないけどの時も親に休

みたいと言ったら、親は

「そんなに休むならバレーやめたら？」

と言われました。いじめにあったら誰かを言おうと思って怖くて言えない日々が続きました。ただバレーが好きなのは変わりませんでした。休んだ次の日に部活に行くと「なんで休んだの。」

とか

「もしかしてサボり？」

など笑いながら言われて、とても泣きたいくその場から逃げたかったです。その日、親から

「最近どうだったの？元気がないよ。」

と言われて、私は事実を話しました。話したらホッとしたりよくな安心感が出て、涙が出てきました。その後、私は一回退部しました。退部したらかわかれば楽しくなると思

ってしまいました。でもやっぱりバレーが好きなのは変わら
ませんでした。やめてからも少しはバレーをしていました。
もう一回入ったらもっと変な目で見られる、いじめられる
と思っついて入りたくても入れないと思っついていました。

四年生になった頃、友達にもう一回誘われました。でも
体験したことを思い出し、最初は断っていました。でも誘
われるうちにだんだん悩んできて心の中で「入らなかった
ら一生後悔する。」と思い、私は再入部しました。最初は不
安で恐ろ恐ろしく行く前の光景と違いました。周りのみんな
は優しい穏やかな雰囲気でした。私は再入部して後悔はあ
りません。なぜなら今いる仲間達や他校の友達、応援して
くれる人が周りにいるからです。この人達のおかげでバレ
ーがもっと好きになりました。

私はこの体験を通して、どんなに好きないじりあつてい

周りの人はいじめられると楽しくなくなったり、一生心の
傷に残ったりすると思っりました。

そして、こんな思っしている人が周りにいるのではと
思いました。部活以外にも学校など見えない所であつてい
るのかもしれない。しかし私は見えなくても、その人が
誰かに相談がでなくなつても、その人の近くにいるみんなが
一番早く気づけることができると思っります。私も家族と友
達が気づいてくれたからです。

また世の中にいじめが沢山あります。
その人達に気づいてあげて、少しでもいじめをなくして
いきたいと思っります。

